

医療用医薬品における情報化進捗状況調査結果(速報値)

〈平成28年9月末〉

1. 製造販売業者による新バーコードの表示率

(1) 調剤包装単位

(単位:%)

医薬品の種類	商品コード		有効期限		製造番号・ 製造記号	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
特定生物由来製品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
生物由来製品	100.0	100.0	18.5	21.8	18.5	21.8
内用薬	97.5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
注射薬	100.0	100.0	5.0	1.5	5.0	1.5
外用薬	95.6	100.0	0.2	0.1	0.2	0.1

注1) は、必須項目だが、表示の実施時期が平成27年7月(特段の事情があるものは平成28年7月)出荷分から表示

注2) は、任意表示

(2) 販売包装単位

(単位：%)

医薬品の種類	商品コード		有効期限		製造番号・ 製造記号	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
特定生物由来製品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
生物由来製品	99.8	100.0	98.8	100.0	98.8	100.0
内用薬	99.8	100.0	14.2	21.8	14.2	21.8
注射薬	99.9	100.0	30.7	35.5	30.7	35.5
外用薬	99.4	100.0	3.5	4.9	3.5	4.9

注) ■ は、必須項目だが、表示の実施時期が平成33年4月(特段の事情があるものは平成35年4月)出荷分から表示。

(3) 元梱包装単位

(単位：%)

医薬品の種類	商品コード		有効期限		製造番号・ 製造記号		数量	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28
特定生物由来製品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
生物由来製品	99.3	100.0	99.3	100.0	99.3	100.0	99.3	100.0
内用薬	72.4	80.8	70.5	75.0	70.5	75.0	69.6	75.0
注射薬	66.3	82.6	63.3	75.0	63.3	75.0	62.8	75.0
外用薬	64.9	71.7	58.3	59.1	58.3	59.3	58.4	59.2

注) ■ は、必須項目だが、表示の実施時期が平成33年4月(特段の事情があるものは平成35年4月)出荷分から表示。

2. 卸売販売業者による新バーコードの利用状況

(上段:回答企業数/下段:全回答企業に対する割合)

利用場所	包装形態	利用状況					
		新バーコードを利用		バーコードの利用なし		合計	
		27年	28年	27年	28年	27年	28年
物流センター	販売包装単位	34社	32社	0社	0社	34社	32社
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	元梱包装単位	27社	25社	7社	7社	34社	32社
		79.4%	78.1%	20.6%	21.9%	100.0%	100.0%
支店・営業所	販売包装単位	39社	37社	9社	8社	48社	45社
		81.3%	82.2%	18.7%	17.8%	100.0%	100.0%
	元梱包装単位	27社	25社	21社	19社	48社	44社
		56.3%	54.4%	43.7%	45.6%	100.0%	100.0%

※物流センターにおける元梱包装単位でのバーコードの利用がない理由:元梱包装を分解し、販売包装単位で入庫を確認を行うため。

3. 必須表示項目の新バーコード表示に向けたメーカー側の検討・取組の状況 (平成28年度 医療用医薬品情報化進捗状況調査におけるメーカーの主な回答)

- すべて対応済み。
- 通知期限内に対応予定。
- 自社製造している品目は、対応済み。委託製造している品目は、平成32年度までの表示に向けて委託先と検討。
- 設備の改修等が必要なラインが多いため、各ラインの設備改修の実施時期を調整の上、順次表示できるよう検討。
- 平成29年度以降、製造ラインの改修等を計画的に行い、新バーコード表示へ対応する。
- 平成29, 30年度以降順次設備導入を実施し、平成30年度以降順次新バーコード表示を実施予定。
- 海外製造分を国内製造に変更し対応予定。
- 元梱包装単位について、製造頻度が極端に少ないため対応時期は未定。
- 社内検討中であるが、具体的な対応は進んでいない。
- 製造委託先に依頼中。
- 製造状況にあわせて、表示可能なところから順次対応予定。